

# 委託事業実施内容報告書

## 平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【日本語教室の設置運営】

受託団体名 NPO大泉国際教育技術普及センター

#### 1 事業の趣旨・目的

この日本語教室は、日本の高校・大学進学を目指した外国籍の子どもたちの日本語能力向上が目的です。具体的には、2004年度～2008年度にかけて文化庁委託事業として実施した「親子の日本語教室（以下、親子日）」開設事業の成果を踏まえて、進学のために有利に機能する資格の取得（日本語能力試験）及び、入試の際の日本語での作文・小論文作成を可能にする程度の日本語能力の向上を目指します。

#### 2 運営委員会の開催について

##### 【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
4月20日	NPO 大泉国際教育技術普及センター 会議室	野山 広 拝野寿美子 高野祥子 戸澤江梨香 中西智美 阿部勇次郎 戸澤順 新垣真一 松島ジオゴ	・受講生の募集について。 ・クラス別にする際の分け方をどうするか。 ・各クラスの担当者の決め方。 ・教材の選別 ・教材の印刷	・受講生の募集に関しては、昨年受講した受講生からの問い合わせがすでにきているので、開講日程を知らせる。 ・チラシを作成し、ブラジルコミュニティに配布する。 ・町役場にもチラシを置かせてもらい公募する。 ・簡単なテストをし、クラス分けの目安とする。 ・6年間実施しているので、毎年講師、講師補助として参加している者を各クラスのリーダーとして、初めて参加する講師補助を牽引していく。

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材はレベルに合わせ、日本語の初級～日本語能力検定試験まで対応する教材を活用する。</li> <li>・印刷は、前日までに各クラスの担当が用意する。</li> </ul>
8月24日	日伯学園 邑楽町校舎	野山 広 拝野寿美子 高野祥子 戸澤江梨香 中西智美 阿部勇次郎 戸澤順 新垣真一 松島ジオゴ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラスの経過報告。</li> <li>・授業を始めてからの問題点</li> <li>・日本語能力検定試験に向けて。</li> <li>・質疑応答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用できる教室の関係上1クラスを2つ、3つのレベルに分け使用しており、聴解問題の演習を行う際、行わない他の受講生に移動してもらわなくてはならない。不便を強いられるが協力してもらうしかない。</li> <li>・日本語能力試験にむけて過去問の演習を強化。</li> <li>・能力試験用の問題集は数が少ないので、繰り返し解くように指導するとともに、日常で使う語彙などを他の教材から引用する。</li> </ul>

【写真】



### 3 日本語教室の開催について

① 日本語教室の名称 日本語能力試験・準備講座及び直前強化講座

② 開催場所 日伯学園 ネスポ校舎

③ 学習目標

この日本語教室は、日本の高校・大学進学を目指した外国籍の子どもたちの日本語能力向上が目的です。具体的には、2004年度～2008年度にかけて文化庁委託事業として実施した「親子の日本語教室（以下、親子日）」開設事業の成果を踏まえて、進学のために有利に機能する資格の取得（日本語能力試験）及び、入試の際の日本語での作文・小論文作成を可能にする程度の日本語能力の向上を目指します。さらに、年少者に対しては、親子日の大きな成果の一つとして見いだされた人材である現在日本の高校に進学しているバイリンガルの外国籍生徒（先輩＝モデル）を講師補助に採用することで、協調学習の場を提供します。そして、その場を通じて、外国人コミュニティ（集住地域）における彼ら自身の存在の意義やポルトガル語（母語・母文化）の重要性や、日本語（第二言語）をしっかりと習得したバイリンガルの人材（二言語併用者）としての将来の可能性に対する自覚を促し、日本の大学進学への動機付けを行います。後半の授業では試験に向けたラストスパートをはかります。文法問題、聴解問題など過去問題を中心に学ぶことで、自信の弱点を知り、それを克服することも目標とします。

④ 使用した教材・リソース

日本語能力試験に関しては、市販の日本語能力試験受験用テキストを使用する。また、小学校の社会の教科書のポルトガル語版（日本文教出版編集部『小学生の社会ポルトガル語翻訳版』2006年）を副読本に、日本の社会、文化等についての理解を深め、その日本語での知識習得を具体的に進める。作文・小論文等作成技術に関しては、中学・高校の教科書や新聞を活用する。

⑤ 受講者の募集方法

地域のブラジル人商店にポスターを掲示および配布でよびかけるほか、知人、友人など人的ネットワークを駆使する。

⑥ 受講者の総数 37 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

⑦ 開催時間数(回数) 54 時間 (全 27 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	5月25日 19:00～ 21:00	2時間	37人	ブラジル国・ポルトガル語(36人) ペルー国・スペイン語(1人)	教授者4人 補助者4人	・日本語で自己紹介 ・クラス分けのテスト

②	6月1日 19:00~ 21:00	2時間	37 人	ブラジル国・ポルトガル語(36人) ペルー国・スペイン語(1人)	教授者4人 補助者4人	・各級に分かれ 過去問演習 ・初級コースは オリジナルひらがなプリント
③	6月8日 19:00~ 21:00	2時間	35 人	ブラジル国・ポルトガル語(35人)	教授者4人 補助者4人	・各級に分かれ 過去問演習 ・初級コースは オリジナルひらがなプリント
④	6月15日 19:00~ 21:00	2時間	35 人	ブラジル国・ポルトガル語(35人)	教授者4人 補助者4人	・各級に分かれ 過去問演習 ・初級コースは オリジナルひらがなプリント、カタカナプリント
⑤	6月22日 19:00~ 21:00	2時間	36 人	ブラジル国・ポルトガル語(35人) ペルー国・スペイン語(1人)	教授者4人 補助者4人	・各級に分かれ 過去問演習 ・初級コースは オリジナルひらがなプリント、カタカナプリント
⑥	6月29日 19:00~ 21:00	2時間	35 人	ブラジル国・ポルトガル語(34人) ペルー国・スペイン語(1人)	教授者4人 補助者4人	・過去問演習 ・試験前強化演習 ・ひらがな・カタカナ・名前・住所の書き方
⑦	7月6日 19:00~ 21:00	2時間	32 人	ブラジル国・ポルトガル語(32人)	教授者4人 補助者4人	・語彙強化演習 ・簡単な漢字
⑧	7月13日	2時間	31	ブラジル国・ポルトガル語	教授者4人	・語彙強化演習

	19:00~ 21:00		人	ル語 (31人)	補助者4人	・簡単な漢字
⑨	7月20日 19:00~ 21:00	2時間	33 人	ブラジル国・ポルトガ ル語 (33人)	教授者4人 補助者4人	・漢字強化演習 ・名前・住所の 書き方復習
⑩	7月27日 19:00~ 21:00	2時間	31 人	ブラジル国・ポルトガ ル語 (31人)	教授者4人 補助者4人	・漢字テスト ・ひらがな・カ タカナテスト
⑪	8月3日 19:00~ 21:00	2時間	29 人	ブラジル国・ポルトガ ル語 (29人)	教授者4人 補助者4人	・語彙強化演習 ・漢字・日常会 話(勉強で使う 語彙)
⑫	8月24日 19:00~ 21:00	2時間	25 人	ブラジル国・ポルトガ ル語 (25人)	教授者4人 補助者4人	・語彙強化 ・漢字の復習 ・日常会話(買 い物で使う語 彙)
⑬	8月31日 19:00~ 21:00	2時間	30 人	ブラジル国・ポルトガ ル語 (29人) ペルー国・スペイン語 (1人)	教授者4人 補助者4人	・語彙強化 ・漢字強化 ・日常会話(病 院で使う語彙)
⑭	9月7日 19:00~ 21:00	2時間	34 人	ブラジル国・ポルトガ ル語 (33人) ペルー国・スペイン語 (1人)	教授者4人 補助者4人	・過去問演習 ・漢字 ・日常会話の復 習
⑮	9月14日 19:00~ 21:00	2時間	32 人	ブラジル国・ポルトガ ル語 (32人)	教授者4人 補助者4人	・過去問演習 ・漢字 ・日常会話の復 習
⑯	9月21日 19:00~ 21:00	2時間	32 人	ブラジル国・ポルトガ ル語 (32人)	教授者4人 補助者4人	・過去問演習 ・漢字 ・日常会話の復 習
⑰	9月28日 19:00~ 21:00	2時間	31 人	ブラジル国・ポルトガ ル語 (31人)	教授者4人 補助者4人	・漢字ゲーム ・しりとりにゲ ーム

⑮	10月5日 19:00~ 21:00	2時間	33 人	ブラジル国・ポルトガル語(32人) ペルー国・スペイン語(1人)	教授者4人 補助者4人	・過去問演習 ・日常会話(役場で使う語彙)
⑯	10月12日 19:00~ 21:00	2時間	30 人	ブラジル国・ポルトガル語(30人)	教授者4人 補助者4人	・過去問演習 ・日常会話(学校で使う語彙)
⑰	10月19日 19:00~ 21:00	2時間	30 人	ブラジル国・ポルトガル語(30人)	教授者4人 補助者4人	・過去問演習 ・日常会話(職場で使う語彙)
⑱	10月25日 19:00~ 21:00	2時間	29 人	ブラジル国・ポルトガル語(30人)	教授者4人 補助者4人	・過去問演習 ・日常会話(職場で使う語彙)
㉑	11月2日 19:00~ 21:00	2時間	31 人	ブラジル国・ポルトガル語(31人)	教授者4人 補助者4人	・過去問演習 ・書類の書き方(役場・学校)
㉒	11月9日 19:00~ 21:00	2時間	32 人	ブラジル国・ポルトガル語(32人)	教授者4人 補助者4人	・過去問演習 ・書類の書き方(役場・学校)
㉓	11月16日 19:00~ 21:00	2時間	34 人	ブラジル国・ポルトガル語(33人) ペルー国・スペイン語	教授者4人 補助者4人	・試験前個別演習 ・初級個別指導
㉔	11月30日 19:00~ 21:00	2時間	34 人	ブラジル国・ポルトガル語(34人)	教授者4人 補助者4人	・試験前個別演習 ・初級個別指導
㉕	12月7日 19:00~ 21:00	2時間	30 人	ブラジル国・ポルトガル語(30人)	教授者4人 補助者4人	・試験前個別演習 ・初級個別指導
㉖	12月14日 19:00~ 21:00	2時間	31 人	ブラジル国・ポルトガル語(31人)	教授者4人 補助者4人	・試験後自己採点指導 ・初級総合テスト

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)



⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
新垣 オタヴィオ	ポルトガル語(ブラジル)	18年	25回	講師・講師補助
松島 ジオーゴ	ポルトガル語(ブラジル)	17年	25回	講師・講師補助
片岡 ヴィクトル	ポルトガル語(ブラジル)	17年	15回	講師
片岡 パウラ	ポルトガル語(ブラジル)	14年	15回	講師補助

⑪ 支援者の名簿(⑩以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
野山 広	国立国語研究所	日本語教育研究・情報センター上級研究員	2回	アドバイザー
拝野 寿美子	神田外語大学	非常勤講師(ポルトガル語専攻)	4回	アドバイザー

4 事業に対する評価について

①□ 当初の学習目標の達成状況

この日本語教室は、日本の高校・大学進学を目指した外国籍の子どもたちの日本語能力向上という目的はある程度達成できた。具体的には、日本における進学や就職のために有利に機能する資格である日本語能力試験の受験者および合格者が多く誕生した(具

体的な結果については下記②の通り)。

## ② 学習者の習得状況

教室設置期間に実施された日本語能力試験には、19人が受験し(F1・2人、F2・3人、F3・6人、F4・6人、F5・2人)、19人全員が合格を果たした。1級合格者の中には、日本の学校に就学した経験がなく、来日後一貫してブラジル人学校に就学してきた者も含まれており、経年的な当教室の具体的な成果となって現れることとなった。

## ③ 日本語教室設置運営の効果, 成果

日本語能力試験の受験・合格を視野に入れた日本語教室という意味において、本教室の前身である親子日本語教室は、2004年度から当NPOが受託してきている。受講生の定着や出入りの多さという点では反省点はあるものの、地域において、夜間に開いている講座として外国籍住民から広く認知されている。受講者や地域住民からの声により、これは実証されている。事業を継続的に行ってきた効果がようやく出てきているといえよう。さらに、2004年、2005年当時の受講者が講師補助となっていることが、当地域の日本語教室設置事業の大きな成果といえるのではないかと。

## ④ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

講師陣は、その多くが大泉・太田地区の日系ブラジル人および日本人大学生であり、将来的な地域の日本語教育を担っていく人材である。帰国と来日を繰り返していたり、ブラジル人学校にのみ就学している子どもたちは後を絶たないことから、日本語を教える人材も持続的・戦略的に育成していく必要がある。その点で、当講座は有効に機能していると思われる。

## ⑤ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)

### a. 現状

当教室では受講者の定着があまり思わしくなかったことが、反省点として挙げられる。途中で再度受講者を集めるための広報活動を行ったが、思ったような効果はなかった。その中でも、講師同士はそれぞれ連携を密にする必要性に気づき、随時意見交換を行っていた。

また、今回初めて日本語教育に携わる講師がいた。教室開設当初は準備不足を運営委員から指摘されたが、その後は意欲的に準備をしてきており、着実に教授力を蓄積していった。

### b. 今後の課題

上記「現状」を踏まえ、講師陣の日本語教育のスキルアップおよび、受講者が日本語学習意欲を維持できるよう、講師側が執念を持つといった精神論も含めて、今後の地域日本語教育を支え続ける人材としての自覚を促していくことが必要であることがわかった。

### c. 今後の活動予定, 展望

2011年度も地域に定着しているこの教室設置事業の申請を行っている。今期の

反省点を踏まえて、地域に定着し着実に成果を上げている日本語教室の基盤づくりにつながっていきたい。具体的には、やはり 2011 年度の事業として貴庁に申請している日本語教師指導者養成と連動させた講師の実力向上とともに、受講者の定着に向けた効果的な広宣活動を模索したり、講座途中で受講生のモチベーションを維持できるような小試験を実施したりするなどを考えている。今回の講師陣も既にそのための準備を始めている。

⑥その他参考資料(受講生に対してアンケート等があれば添付してください。)

**※写真は、肖像権等に配慮し、差し支えのないものを添付すること。**